

成果品

- (1)平成12年4月から平成13年3月までの4工法施工実績表の発行
- (2)「大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料」の発行
- (3)ホームページの開設

広報活動

- (1)広告 1回  
新聞「日刊建設工業新聞」  
平成13年5月特集号(土質・地質の基礎)
- (2)協会ニュース 2回 第13号、第14号

行事

●第二東名高速道路現場見学会

9月20日、23名の会員が参加して、現場見学会が開催されました。この有益な見学会の場をご提供くださった日本道路公団ならびに(株)加賀田組・中部土木(株)共同企業体および五洋建設(株)・東亜建設工業(株)・(株)さとう

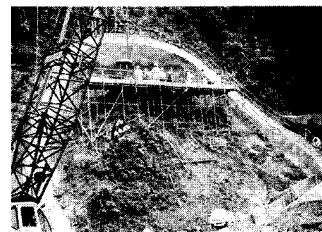


事業説明・掘削工事説明風景(日本道路公団)

ベネック共同企業体の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

(1)第二東名高速道路中河内川橋下部工工事大口径深礎新工法の見学

本深礎工事は、急斜面施工で、工費低減、工期短縮の“竹割り型”大口径深礎新工法で、掘削径12m、掘削長16m、見学時には坑口部の補強部材リングビームの吹付コンクリートを終了した状況でした。“竹割り型”構造物掘



“竹割り型”坑口部の吹付コンクリート

削施工状況の見学は、以前、静岡の建設事務所から協会に狭いスペースで可能な施工の提案要請がありましたが、今回見学したのは、これを解決した工法でした。

(2)第二東名高速道路清水第一トンネル先進導坑工事NATM工法の見学

直径5mのトンネル先進導坑工事は、中硬岩層をTBMで下り線の西側坑口から約1,350m掘削後、東側坑口手前で半径30mの急曲線でUターンし、上り線を掘削済みでした。東側坑口手前のUターン部より、東側坑口までの軟岩層における直径5mのトンネル内でのNATM工法によるトンネル掘削状況を見学しました。掘削はレールジャンボ、ずり搬出はシャフローダを採用していました。

User Interview

市川運輸(株) 代表取締役社長 市川 三喜男氏

今回は、基礎工事用ケーシング回転掘削機、アースドリル機、クローラクレーン、パワーショベル、運輸用20~40tトレーラ、貨物自動車等、全社所有台数計82台の重機を駆使して、東海、関東、東北一帯の建造物の基礎杭を造成されている業界トップクラスの施工・運輸会社、市川運輸(株)にお伺いし、インタビューしました。

記者: 基礎施工業界に携わるようになったのは、いつ頃からですか?

市川: 昭和35年に、市川商店として建設資材の梱包運搬を従業員6名で開業し、昭和47年に有限会社市川商店に、昭和49年に市川運輸株式会社に組織変更しました。昭和59年に土木工事業の認可を受け、運輸部と基礎工事を設け、平成7年に基礎工事を分離、白河基礎重機株式会社を福島県に設立しました。現在、従業員77名の会社に発展しました。

記者: 貴社の岩盤掘削技術の優れている点は何でしょうか?

市川: ケーシング回転岩盤掘削機、CD1500~2000機4台をCD班専門家グループの実力派が、高度な技術力で対応していることです。河川・橋梁工事の岩盤層の掘削工事、特に玉石や巨大な転石の切削掘削工事に、高い削孔精度が自慢です。

掘削径2,000mmまで、低振動・低騒音で施工をしています。また、既存杭・地中障害物の除去工事も完全施工し、基礎杭掘削工事施工のエキスペートが、掘削長50mにも及ぶ深い杭の掘削経験と実績もっています。各種クレー

ン作業から運送と基礎工事の異業種3つを同じ会社で行っており、重機を中心に幅広い対応力があります。

記者: 貴社の「社是」と「社員の育成」についてお聞かせください。

市川: 社是は、「誠心誠意をもって、お客様に対応する」と「うそをつかない」の2つです。

社員の育成については、社団法人の神奈川トラック協会での「集合研修」のOFF-JT、日常の仕事についての先輩によるOJT。社員とのコミュニケーションは、月1回、部門別に定例ミーティングを行っています。

記者: いま日本企業の多くは変革を求められていますが、市川運輸の今後の取り組みについてお聞かせください。

市川: 「岩盤掘削機を利用した、メリットのある特殊技術」を開発していきたい。また、「クレーン作業」と「運送」と「基礎工事」の3つを同じ会社で行っているメリットを生かし、さらに「コストダウン」を図っていきたい。

記者: 市川社長の趣味、信条をお聞かせください。

市川: 趣味は、クレーシューティング。11月15日から2月15日の狩猟解禁時に、銃を背負って伊豆や丹沢の山々を歩くこと。県の射撃大会、銃砲安全協会の射撃大会への出場。テニス、ハイキング、音楽鑑賞(ジャズ、クラシック、艶歌)。

信条は、「良質の運転手の確保」、「技術の向上」、「安全運転」、「事故撲滅」を第一にしています。

記者: 本日はお忙しい中、貴重な時間を割いていただきまして、まことにありがとうございました。貴社のますますのご発展をお祈り申し上げます。

(事務局 葭田誠作)



市川 三喜男氏